

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：吉田 淳

事務局：愛知教育大学理科教育講座 内

URL : <http://www.jsse.jp>

2012.4.24

NO.207

科学教育研究レター



目 次

■ 理事会だより

第 249 回理事会報告（案）2

■ 年会

第 36 回年会開催案内（第 4 次）4

■ 年会論文集執筆要領11

■ 若手の会

第 36 回年会での会合14

若手の会メーリングリストのご案内...14

■ 学会賞

第 35 回年会発表賞の決定について...15

■ 研究会・支部だより

平成 23 年度第 6 回研究会

（北陸甲信越支部担当）のご案内16

平成 23 年度第 8 回研究会

（東海支部担当）のご案内16

■ 編集理事会だより17

■ 国際交流委員会だより

海外の学会参加報告（3）18

■ 広報委員会からのお知らせ19

日本科学教育学会第 249 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2012 年 3 月 17 日（土）14：00～17：00
会 場 コクヨ品川オフィス
出席者 会長 吉田
理事 熊野、吉岡、小川、坂谷内、猿田、土田、
銀島、片平、藤岡、今村、渡辺、縣
小山、隅田、高藤、荻原、久保田
監事 鶴岡
幹事 平野
委員長 中山

1. 議事要録（案）の承認

○第 248 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 249 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果を承認した。

○12 月 18 日までに入会を希望した 5 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（1 月 12 日）

○公共会員の入会審査を電子会議により審査した結果、承認（1 月 23 日）

○1 月 31 日までに入会を希望した 2 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（2 月 2 日）

○2 月 29 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認（3 月 10 日）

○教科「理科」関連学会協議会が文科省へ提出する要望書への連名について審査した結果、学会名・会長名の連名記載をすることを承認（2 月 6 日）

○編集委員の年度途中の追加について審査した結果、新たに佐藤明子委員の追加を承認（2 月 28 日）

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付、メール受理を含む）の報告があった。

○以下の対応について報告があった。

・株式会社マテリアル（ゆうちょ銀行主催）：第 36 回「私のアイデア貯金箱」コンクール二次審査会・寄附金贈呈式の出席について回答した（11 月 24 日）。

・株式会社科学新聞社：年次大会アンケートについて清水会員（第 36 回年会実行委員会）に回答を依頼した（12 月 26）。

・公益財団法人東レ科学振興会：東レ科学技術賞の選考結果および贈呈式の出欠について回答した（3 月 1 日）。

・佐藤明子会員宛に編集委員の委嘱状（期間 2012 年 2 月 28 日～6 月 30 日）を送った（3 月 6 日）。

2) 経理・会員

○中間決算書に基づき、経理状況について報告があった。震災対応による会員費免除は、13 名となった（会費は納めて、震災対応費で免除処理）。

3) 機関誌編集

○機関誌編集について以下のような報告があった。

新規投稿論文 10 編、査読中論文 29 編、掲載決定論文 6 編であった。次期特集（第 37 巻第 2 号）の「科学教師教育」の企画進捗状況について。査読者の入力のための向上のために web 上の査読システムの改善について計画中である。

4) 学会賞

○第 35 回（2011 年）年会発表賞について、会長、副会長、担当理事による選考の結果、「限られた時間の中で“何を”“どのように”“どこまで”教えていくのか？」（吉田安規良（琉球大学））と「地域に根差した傷害予防デジタルコンテンツの開発ー長崎県大村市における実践ー」（井上美喜子（産業技術総合研究所）他 6 名の共著）の 2 件が推薦され、承認された。

5) 支部・研究会

○平成 23 年度第 8 回研究会を 6 月 23 日に静岡大学で開催する。

○平成 24 年度の研究会開催予定と支部長の交代連絡を求める。

6) 調査研究・学術交流

○教科「理科」関連学会協議会との連携活動として、サイエンスアゴラ 2011 にてシンポジウム開催した（2011 年 11 月 19 日）。

○文部科学省への要望書を提出した（2012 年 3 月 10 日）。

○シンポジウム「小学校理科新学習指導要領になったの一年」開催予定（2012 年 5 月 19 日）の周知依頼があった。

7) 国際交流

○今年のマレーシアの ICASE の会合に会員を派遣すること及びレターの紙面に国際交流関連の記事を定期的に載せることを計画している、との報告があった。

8) 年会企画

○第 36 回年会（東京理科大学）準備の進捗状況について報告があった。

○その他以下の報告があった。

・次号レターに年会の第 3 次案内を掲載する。

・課題研究の募集受付方法を 2 段階から 1 段階に変更した。

・論文の受付期間を前年よりゆとりを持たせることにした。

・第 39 回年会（2015）を山形大学で開催する方向で検討し、年会企画委員会の審議では承認された。なお 37 回年会（2013）は三重大学の開催で進めているが、38 回年会（2014）の候補地については未定であり、今後検討することとなった。

9) 組織改革

○会長から法人化について情報を整理して欲しいとの依頼がワーキンググループに出され、今後情報の整理をしていくこととした。

10) 広報

○リンク集を整備していきたいとの報告があった。

11) 東日本大震災関連

○被災地の学校支援のための資金があり（文部科学省から上限 100 万円）、大学が母体となってボランティア参加の提案をしてほしいとの報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者 34 名を承認した。

*現在会員数 1331 名（正会員 1217 名、学生会員 96 名、名誉会員 13 名、公共会員 2 名、賛助会員 3 名）（2012 年 3 月 6 日付）

（前回理事会：会員数 1351 名（正会員 1235 名、学生会員 99 名、名誉会員 13 名、公共会員 1 名、賛助会員 3 名）2011 年 11 月 11 日付）

2) 機関誌編集

○査読規程の一部修正について、提案が承認された。

3) 学会会長候補者、理事候補者、監事候補者の選出について

○WG から候補者リストが示され、22 名理事候補に、さらに 7 名の候補を追加し、一次候補として 20 名の候補を選挙管理委員会に提出することとした。会長候補、監事候補については、会長が最終決定をすることとした。

4) 著作権規程の改訂について

○著作権規程案作成のためのWGを設けることになった。次回理事会に案を提出の予定。

5) 研究会研究報告及び年会論文集のプリントサービスについて

○年会論文集及び研究会研究報告の印刷・製本及び別刷の印刷サービスを行うことを決定した。なお、研究会研究報告の編集について、業者に委託できないかとの意見が出され、検討することになった。

5. 次回以降の理事会予定

第 250 回：2012 年 6 月 16 日（土）14：00～17：00 場所：コクヨ品川オフィス

年 会

第 36 回年会 開催案内（第 4 次）

※第 3 次案内から、「9（1）申込及び原稿提出の期限」、「10（1）申込及び原稿提出の期限」、「10（4）一般研究発表のセッション」、「11. 参加申込」、「12. 懇親会」がアップデートされています。

1. 年会テーマ：

テーマ：次世代の科学力を育てる：社会とのグラウンディングを進展させるために

趣旨：「次世代の科学力を育てる」というメインテーマは、現代の科学教育において重要課題であるため、第33回年会から引き継いでいます。今回の年会では、これまでの年会の成果を踏まえて、「科学力」を社会全体に根付かせること（グラウンディング）を進展させるために求められる科学教育の諸要件について議論します。

2. 日程：2012年8月27日（月）～29日（水）（3日間）

3. 会場：東京理科大学 神楽坂校舎

（〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3）

<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

4. 主催：日本科学教育学会（後援：未定）

5. 年会実行委員会：

[実行委員長] 澤田利夫（東京理科大学）

[実行副委員長] 小川正賢（東京理科大学）

[事務局長] 清水克彦（東京理科大学）

[年会論文集担当] 川村康文（東京理科大学）

[委員] 北原和夫（東京理科大学）、井上正之（東京理科大学）、武村政春（東京理科大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）

6. 連絡先：〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

東京理科大学・理学部数学科・清水克彦研究室

日本科学教育学会第36回年会実行委員会

Tel & Fax 03-5228-8718

JSSE2012 [at mark] rs.kagu.tus.ac.jp

7. 内容

次の内容を予定しています。

(1) シンポジウム

テーマ：次世代の科学力を育てるための教員・指導者養成

趣旨：第33回年会より、「次世代の科学力を育てる」という年会のメインテーマをめぐって、シンポジウムを開催してきました。第33回から前回の第35回年会にいたるまで、学会の外部の専門家を招くことで、社会から本学会が何を期待されているかについて議論を重ねてきました。これまでの議論を発展させるべく、今回の第36回年会のシンポジウムでは、学会の内部の専門家に登壇頂き、今後、社会に向けて本学会が何をなすべきかについて議論します。とりわけ、今回のシンポジウムでは、「教員・指導者養成」に焦点を当て、次世代の科学力を育てるために必要となる教員・指導者養成のあり方について考察します。

(以下、敬称略)

司会

- ・吉川 厚 (東京工業大学)

登壇者

- ・長崎栄三 (静岡大学) : 数学教育の立場から
- ・小倉 康 (埼玉大学) : 理科教育の立場から
- ・大谷 忠 (東京学芸大学) : 技術教育の立場から
- ・小川義和 (国立科学博物館) : 博物館・科学館／サイエンス・コミュニケーションの立場から

指定討論者

- ・猿田祐嗣 (国立教育政策研究所)
- ・美馬のゆり (公立ほこだて未来大学)

(2) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定分野でアクティブに研究を進めている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせて頂く招待講演です。

昨年の学会賞受賞者でもある加藤 浩 (放送大学) 学会員にご講演頂きます。

(3) 課題研究

前回の第35回年会と同様に、学会企画と自主企画を統合し、学会員から多様な研究テーマに関する企画を募集します。

(4) 年会実行委員会企画セッション

「次世代の理数力を育てる理数教育の研究 (仮)」というテーマの企画を予定しています。

(5) 一般研究発表

例年通り、1件の発表の持ち時間は20分 (発表15分、質疑5分) です。

(6) インタラクティブセッション

例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。

(7) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

8. 課題研究の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場です。企画をお持ちの方は応募をお願いします。

<スケジュール>

- ・企画受付締切：2012年5月7日 (月) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議：2012年5月8日 (火) ~5月17日 (木) 【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2012年5月18日 (金) 【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・登壇者の最終確定：2012年5月31日 (木) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・原稿提出期限：2012年6月30日 (土) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究の Web ページからダウンロードして、必要事項をご記入の上、送ってください。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者（指定討論者含む）の確定：登壇者を企画受付締切までに確定してください。登壇者未定の企画は受理されません。なお、課題研究発表での登壇は1回となりますので、登壇者を依頼される際にはご留意願います。また、登壇者の重複はできません。登壇者を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究のテーマにおける発表と重複されていないかどうかについて、登壇者自身に対して発表の重複ができない点を周知した上で、確認してください。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議いたします。非会員による発表件数が企画受付締切時点（5月7日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって登壇者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されますのでご留意願います。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、企画受付締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

<第35回と異なっているので注意頂きたい点>

- ・一次受付がありません。
- ・オーガナイザーは、ご自身で課題研究のWebページから課題研究申請用紙及び理由書をダウンロードしてください。
- ・入会申込書の受付を済ませた方の入会時期が、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

9. インタラクティブセッションの申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2012年6月18日（月）～6月30日（土）

※申込と原稿提出を同時に行って下さい。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、下記URLからアップロードしてください。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従って下さい。

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

(3) 発表資格・発表可能件数

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1件です。

インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

10. 一般研究発表の申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2012年6月18日（月）～6月30日（土）

※申込と原稿提出を同時に行ってください。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従ってください。

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

(3) 発表資格・発表可能件数

一般研究の登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能な一般研究の件数は、1件です。

一般研究の登壇者は、課題研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

(4) 一般研究発表のセッション

一般研究発表のセッションは、以下の通りです。

一般研究発表については、研究発表申込の際に、ご希望のセッションを選択して頂きます（第1希望と第2希望）。

みなさまのご希望を考慮して、年会プログラムを作成します。

ただし、お申し込み頂いた発表全体のバランスの関係などから、必ずしもご希望に沿えないこともございますのでご了承ください。

科学教育論

科学教育政策

国際比較・国際貢献（国際支援）
高等科学教育
科学教育課程
科学認識
科学的学力・能力
科学教育各論
教育実践・科学授業開発
教育方法と評価
教材開発
IT・メディア利用の科学教育システム
科学教育連携システム
科学教育人材養成
科学教育の現代的課題

11. 参加申込

- ・ Web 参加申込と参加費事前払込期間：2012 年 6 月 18 日（月）～8 月 15 日（水）
- ※発表申込・原稿提出に加えて、Web 上からの参加申込もお願いします。
発表申込だけですと、参加申込が行われていない状態となってしまいますのでご注意ください。
- ※参加費および年会論文集・追加購入費は、下記の表をご参照ください。
参加費の事前払込割引があります。7 月 20 日（金）までの払込がかなりお得です。
- ※払込期限は、8 月 15 日（水）までとします。これ以降は、当日会場にて参加費をお支払いください。
- ※参加費には、年会論文・要旨集（冊子体）1 冊、年会論文集（USB メモリ）1 個が含まれています。
- ※年会論文集・追加購入費には、年会論文集（USB メモリ）1 個が含まれています。ただし、年会論文・要旨集（冊子体）は含まれていません。
- ・ 申込先：下記 URL からお申し込みください。
<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>
- ・ 払込方法：下記口座に払込ください。手数料はご負担ください。
東京三菱 UFJ 銀行 神楽坂支店（店番号 052）
口座番号 普通 0080453
口座名義 日本科学教育学会第 36 回大会事務局

12. 懇親会

- 懇親会は原則として、Web 上からの事前申込となります。
- 当日申込も受け付けますが、定員になり次第、締め切らせて頂きます。
- ・ 日時：8 月 28 日（火）夕方
 - ・ 会場：東京理科大学 神楽坂校舎
 - ・ 懇親会費：次ページの表をご参照ください。
 - ・ 申込先：参加申込とあわせて、Web 上からお申し込みください。
 - ・ 払込方法：参加費とあわせて払込ください。

	種別	7月20日 までに払込	8月15日 までに払込	当日
参加費 ※参加費には、年会論文・要旨集（冊子体）1冊、年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。	一般会員	¥6,000	¥6,500	¥7,000
	学生会員	¥4,000	¥4,500	¥5,000
	一般非会員	¥8,000	¥8,000	¥10,000
	学生非会員	¥6,000	¥6,500	¥7,000
年会論文集・追加購入費 ※追加購入費には、年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。ただし、年会論文・要旨集（冊子体）は含まれていません。	種別関係なく	¥2,500	¥2,500	¥3,000
懇親会費	一般会員	¥4,500	¥5,000	¥6,000
	学生会員	¥3,000	¥3,000	¥5,000
	一般非会員	¥5,000	¥6,000	¥6,000
	学生非会員	¥5,000	¥6,000	¥6,000

13. 年会論文集の電子化

前回の第35回年会と同様に、年会論文集を電子化します。

- 年会当日は、学会会場の見取り図、プログラムなどが掲載された「年会論文要旨集」を紙媒体で配布します。ただし、年会論文要旨集には、個々の研究の論文は掲載されていません。
- 従来の体裁・様式を踏襲した「年会論文集」については、紙媒体での印刷・配布は行わず、電子ファイルでご提供いたします。年会当日は、年会論文集の電子ファイルを格納したUSBメモリなどの媒体を参加者の方にお配りします。
- 年会論文集の暫定版PDFファイルを事前（おおむね年会の数日前）に、参加費をご入金を頂いた参加申込者に限定した形で、Webで公開いたします。年会Webから参加申込を行い、参加費をご入金頂きますと、年会実行委員会側で入金を確認し、Web公開前に、URLとパスワードキーを電子メールでご連絡いたします。事前に発表論文をお読み頂くことで、年会での議論が活性化することを期待しています。

14. 年会企画委員会

委員長：山口悦司（神戸大学）

副委員長：加藤 浩（放送大学）、谷塚光典（信州大学）

幹事：松浦拓也（広島大学）

委員（五十音順）：青山和裕（愛知教育大学）、荻原 彰（三重大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、川村康文（東京理科大学）、清水克彦（東京理科大学）、下村 勉（三重大学）、大黒孝文（同志社女子大学）、寺野隆雄（東京工業大学）、茅野公穂（信州大学）、寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、東原貴志（上越教育大学）、二見尚之（湘南工科大学）、松寄昭雄（埼玉大学）、三崎 隆（信州大学）、森田裕介（早稲田大学）、吉川 厚（東京工業大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）

担当理事：佐伯昭彦（鳴門教育大学）、高藤清美（筑波学院大学）

■ 用紙サイズ

A4 版用紙縦向きで作成してください。ワープロ書きを原則とします。

■ ページ数

企画により、ページ数が異なります。

指定のページ数と異なるものは受付しませんので、提出前に必ずご確認ください。

<一般研究>

2 ページ

<課題研究>

発表 1 件あたり 4 ページまたは 2 ページ

<インタラクティブセッション>

2 ページ

<その他の企画>

企画責任者の指示に従ってください。

■ フォーマット

フォーマットについては、執筆例（Word ファイル）を参照してください。

執筆例は、年会 Web からダウンロード頂けます。

@著者

- ・著者が連名の場合は、登壇者名の前に○印をつけてください。
- ・著者の所属が異なる場合、各著者の氏名と勤務先の右肩に*、**、…… や A、B、C、…… などを

付して、対応させてください。

@段組

2 段組による作成、段落なしによる作成のいずれでも結構です。

(執筆例 (Word ファイル) は 2 段組になっています)

次の文字数・行数を目安にしてください。

- ・ 2 段組の場合：1 段あたり 20 文字×40 行
- ・ 段落なしの場合：42 文字×40 行

@文字サイズ

極小文字の使用はさけてください。

@フォント

Windows または Mac に標準で搭載されているものだけを使用してください。

それ以外を使うと、文字化けが起こり正常に表示・印刷されませんので注意してください。

■ ファイル形式

PDF のみです。他のファイル形式での提出は受け付けません。

Word 形式も受け付けませんので、ご注意ください。

他のファイル形式で原稿を作成した場合は、必ず PDF に変換してください。

@PDF の留意事項

- ・ PDF 作成時に、図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります。作成した PDF を印刷してチェックしたのち、投稿して下さい。
- ・ PDF にフォントが埋め込まれているか自信がない場合には、一般的なフォント、文字コードを利用して下さい。文字コードによっては、検索できない場合もあります。
- ・ 提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、年会企画委員会ならびに年会実行委員会では行いません。

■ 提出方法

企画により、提出方法が異なります。

<一般研究>

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

<課題研究>

オーガナイザーまたは企画責任者がとりまとめて、下記 URL からアップロードしてください。

<インタラクティブセッション>

申込者が直接、下記 URL からアップロードしてください。

<その他の企画>

企画責任者の指示に従ってください。

■ 原稿アップロード URL

<https://dev.faeg.jp/jsse/nenkaimenu.php>

■ 原稿アップロードに際しての留意事項

@発表題目、著者名、所属

原稿アップロードの際に、Web上で、発表題目、著者名、所属をご記入頂きます。ご記入頂いた内容が、そのまま、日本科学教育学会年会論文・要旨集、年会Webなどに反映されます。原稿と同一内容であるか、間違いがないかを必ずご確認ください。チェック作業は、年会企画委員会ならびに年会実行委員会では行いません。

@研究概要

100字以上、300字以内で、研究概要を記入ください。ご記入頂いた内容が、そのまま、日本科学教育学会年会論文・要旨集、年会Webなどに反映されます。原稿と同一内容であるか、間違いがないかを必ずご確認ください。チェック作業は、年会企画委員会ならびに年会実行委員会では行いません。

@著者全員のメールアドレス

電子版論文集の電子キー発行、参加登録状況などの管理などのため、著者全員のメールアドレスが必要となります。原稿アップロードの際に、Web上でご記入ください。

@参加申込

発表申込・原稿提出に加えて、Web上からの参加申込もお願いします。

発表申込だけですと、参加申込が行われていない状態となってしまいますのでご注意ください。

■ 発表資格・発表可能件数

<一般研究>

一般研究の登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能な一般研究の件数は、1件です。

一般研究の登壇者は、課題研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会在開催される新年度からの入会でも可となります。

<課題研究>

課題研究の登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、1つの企画について、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとします。

登壇者として発表可能な課題研究の件数は、1件です。

課題研究の登壇者は、一般研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

<インタラクティブセッション>

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1件です。

インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、申込及び原稿提出と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、申込及び原稿提出の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可となります。

<その他の企画>

その他の企画の登壇者は会員、非会員を問いません。

登壇者として発表可能なその他の企画の件数については、別扱いとします。

■ 執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

- ・研究領域：日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。
- ・主題または問題の所在：問題の所在が明快である。
- ・研究の背景：関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。
- ・研究の方法：研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。
- ・結果と知見：得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。
- ・結論：問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

若手の会

第36回年会での会合

年会の前日、あるいは開催中の夜に、昨年同様、若手同士のネットワークづくりを目的として、お互いの興味・関心や今後の展望を語るという会合を予定しています。

現在、年会企画委員会で検討を進めています。詳細が決まりましたら、学会レター、年会ホームページ、メーリングリストなどでお知らせいたします。お楽しみに。

若手の会メーリングリストのご案内

JSSE 若手の会では、山形大学の加納寛子先生のご支援により、メーリングリストを立ち上げています（加納先生、ありがとうございます）。参加者のみなさんと相互に、国際会議、新刊案内、求人など、研究情報を交換しています。

参加をご希望される方は、下記の要領でご連絡ください。

- ・申込先アドレス（加納先生）：[kanoh \[at mark\] pbd.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:kanoh[at mark] pbd.kj.yamagata-u.ac.jp)

・ 件名：科学教育学会若手の会 ML 登録希望

また、登録アドレスの変更または削除についても、必ず上記加納先生宛にご連絡くださいますようお願いいたします。

■ 第 36 回年会「若手の会」企画担当委員

青山和裕（愛知教育大学）*kaoyama [at mark] auecc.aichi-edu.ac.jp*

加藤久恵（兵庫教育大学）*katohi [at mark] hyogo-u.ac.jp*

第 35 回年会発表賞の決定について

第 35 回年会発表賞選考委員会では、会員からの推薦にもとづいて慎重に協議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。そして、第 249 回理事会の議を経て、以下の会員に日本科学教育学会・第 35 回年会発表賞を授与することを決定致しました。

【第 35 回年会発表賞】

次の 2 件の発表に授与されることが決まりました。おめでとうございます。

・ 吉田安規良（琉球大学）

発表題目「限られた時間の中で“何を”“どのように”“どこまで”教えていくのか？」

・ 井上美喜子（産業技術総合研究所）北村光司（産業技術総合研究所）西田佳史（産業技術総合研究所）出口貴美子（出口小児科医院）高山隼人（長崎医療センター）小尾重厚（大村市医師会）城仁士（神戸大学）

発表題目「地域に根差した傷害予防デジタルコンテンツの開発－長崎県大村市における実践－」

会員の皆様からの候補者推薦へのご協力に感謝申し上げます。今回の有効推薦数は 105 票でした（前回 63 票）。選考委員会において、最高得票数 6 票の 1 件と次点 5 票の 1 件の発表について、「科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の年会で発表した本会会員に贈呈する」、過去の受賞者においては「年会発表賞受賞後さらに優れた発表をした場合には、その発表について受賞対象とする」との選考規定に基づき慎重に審議し、候補となった学会員について、第 249 回理事会の審議を経て年会発表賞受賞者を決定いたしましたことをご報告いたします。

吉田安規良氏の発表は、現行制度や免許状更新講習の中で理科授業に苦手意識を持っている小学校教員志望学生や現職教員に対してそれらを改善するための方策を開発し、支援を試みた点に特徴があり、実践の結果、受講生の理科授業に対する自信を高めた点、かつその成果に止まらず次なる課題に取り組んでいる点が特に優れているとして評価されました。

井上美喜子氏他 6 人の発表は、地域に根差した傷害予防教育の一環として、長崎県大村市で発生した傷害のデータをもとに大村市版傷害予防 DVD を開発した点に特徴があり、さらに、それを活用

し関係者が市民公開セミナー等を開き、広く研究成果を地域に還元しているところが特に優れているとして評価されました。

(学会賞担当理事 美馬のゆり、片平克弘)

研究会・支部だより

平成 23 年度第 6 回研究会（北陸甲信越支部担当）のご案内

平成 23 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部担当）を開催いたします。つきましては、下記の要領で研究発表を募集しますので、ご発表・ご参加のほどよろしくお願ひ申し上げます。

- [主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会北陸甲信越支部
- [日 時] 2012 年 6 月 23 日（土）10:00～16:00
- [会 場] 信州大学教育学部（長野県長野市）
- [対 象] 会員、教員、学生、社会人
- [参加費] 無料（発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。）

[申込締切] 2012 年 5 月 7 日（月）

申込時は、発表者名、所属、発表タイトル、連絡先をご連絡ください。
(液晶プロジェクタとスクリーンは用意いたします。)

[発表原稿締切] 2012 年 5 月 18 日（金）

[申込及び発表原稿送付（連絡先）]

〒380-8544 長野県長野市西長野 6-1-1 信州大学教育学部 谷塚光典

Tel/Fax : 026-238-4245/4242、E-Mail : [yatsuka \[at mark\] shinshu-u.ac.jp](mailto:yatsuka[at]mark@shinshu-u.ac.jp)

平成 23 年度第 8 回研究会（東海支部担当）のご案内

平成 24 年度には新学習指導要領が中学校でも完全実施されることになり、これに対応して科学教育研究とそれに基づく実践のあり方が求められています。また、中央教育審議会の生涯学習部会から今後の教育の柱が提案されました。そこで、小学校から大学までの教員や研究者が「社会を生き抜く力を育成し、未来への飛躍を実現する科学教育」をテーマとして様々な立場から議論したいと思ひます。つきましては、下記の要領で研究発表を募集しますので、多数の方々の申込みをお待ちしております。なお、テーマに関する発表以外で科学教育全般に関する研究発表も歓迎いたしますので、申込んでください。

- [主 題] 社会を生き抜く力を育成し、未来への飛躍を実現する科学教育
- [主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会東海支部
- [後 援] 静岡県教育委員会(予定)、静岡市教育委員会(予定)
- [日 時] 2012年6月23日(土) 10:00~17:00
- [会 場] 静岡大学教育学部 G棟
(〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 TEL:054-238-4637/4636)
- [対 象] 学会員、小学校・中学校・高等学校・大学教員、学生、社会人
- [参加費] 学会員は無料、学会員でない方は500円です。
- [参加予定者数] 約50人

注) 講演論文集はデジタルのみでHPにアップされます。

アクセス方法: 静岡大学アクセス URL: <http://www.shizuoka.ac.jp/access/index.html>

申込先(連絡先): 内ノ倉真吾 E-Mail: [esuchin\[at mark\]ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:esuchin[at mark]ipc.shizuoka.ac.jp)

申込み等:(発表申込み締切) 2012年5月7日(月) 原稿締切 2012年5月25日(金)

※発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、連絡用電子メールアドレス、連絡先電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した電子メールを上記までお送りください。

※発表原稿様式等については、発表申込があった方にメールにてお知らせいたします。

編集理事会だより

平成24年3月17日(土) 11:00~14:00、平成23年度第2回編集理事会がコクヨ品川オフィス1階106号室において開催されました。

まず、平成23年度第1回編集理事会議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われました。新規投稿論文(2012.1.25~2012.3.9)が10編(和文10編、英文0編)、査読中論文(2012.3.9現在)が29編(担当編集委員選定中4編、査読員選定中1編、査読中(1回目)4編、担当編集委員による総合判定中(1回目)1編、改訂稿待ち8編、査読中(2回目)10編、担当編集委員による総合判定中(2回目)1編)、掲載決定論文(2012.1.25~2012.3.9現在)が6編(研究論文5編、資料1編(通算合計36-1:9編、36-2:1編))です。

続いて、以下の6点について審議と報告が行われました。

- (1) 査読規程の改定について銀島理事より説明があり、表記修正が認められました。
- (2) 第37巻特集のテーマおよび特集編集部会の構成メンバーについて検討されました。
- (3) H24年度編集委員会組織作りについて意見交換がなされました。
- (4) 第36巻第2号の特集について、隅田特集編集部会長より編集状況の報告がありました。
- (5) 佐藤明子編集委員の臨時増員について報告がありました。
- (6) 査読システムの改良について銀島理事より説明があり、意見交換がなされました。

次回、平成23年度第3回編集理事会は2012年6月16日(土) 11:00~14:00(コクヨ品川オフィス)の予定です。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成24年3月9日 現在)

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2011年 3月	9	1	16	2	6 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		3	0
4月	6	1	21	2	3 (35-2) 0 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	3 (35-2) 0		2	0
5月	4	0	19	0	0 (35-2) 1 (35-3)	0 (35-2) 1 (35-3)	0		3	0
6月	7	0	19	0	0 (35-2) 3 (35-3)	0 (35-2) 0 (35-3)	0		6	0
7月	5	1	17	1	2 (35-3) 0 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		5	0
8月	3	0	15	0	0 (35-3) 2 (35-4)	0 (35-3) 0 (35-4)	0		4	0
9月	16	2	23	2	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		7	0
10月	2	1	23	3	0 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
11月	8	0	28	3	1 (35-4) 0 (36-1)	0 (35-4) 0 (36-1)	0		2	0
12月	2	1	26	4	2 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	1
2012年 1月	6	0	26	4	4 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		1	1
2月	6	0	25	4	3 (36-1) 0 (36-2)	0 (36-1) 0 (36-2)	0		4	0
3月	4	0	25	4	1 (36-2) 0 (36-3)	0 (36-2) 0 (36-3)	0		3	0

国際交流委員会だより

海外の学会参加報告(3) ~平成23年度全国科学館連携協議会海外研修報告~

2012年2月23~29日に、オーストラリアで開催された平成23年度全国科学館連携協議会海外研修について報告します。本研修は、日本科学未来館が事務局となって運営される全国科学館連携協議会によって毎年行われている海外研修です。今年度は、科学コミュニケーションやサイエンスパフォーマンスなどを中心に、当該協議会加盟館からの参加者が共通のテーマを共有するとともに、各館の課題に即して各自研修テーマを設定して行いました。12名の科学館関係者が参加しました。今回は、科学館職員である会員の立場から、本学会員にぜひ共有したいテーマに絞って報告をします。

オーストラリア国立大学科学コミュニケーション推進センター(CPAS)とクエスタコン(国立科学技術センター)の連携活動に関する理念・取り組みの紹介に引き続き、日本からの参加者による科学コミュニケーション活動の報告を行い、意見交換が行われました。ここでは、静岡科学館がJSTの支援を受けて行っている「先進的科学館連携推進事業」の中の科学コミュニケーター育成講座について、

10 分間の口頭発表を行いました。

センター長の Sue Stocklmayer 教授からは、地方館で科学コミュニケーター育成講座を行うことと、開講初年度にもかかわらず成果と課題の分析が一定のレベルでできていることへの大きな激励をいただきました。意見交換の中では、特にキャンベラ以外の地域においてCPASとクエスタコンの連携活動の理念や活動の共通理解を得ることの難しさも挙げられ、それは現在の科学コミュニケーションの持つ多様性が一因としてあるのではないかということが指摘されました。

研修中には、「サイエンス・サーカス」と呼ばれる、トレーラーにサイエンスショーの道具を積んで各地でサイエンスフェスティバルやサイエンスショーを展開する事業に同行して、見学しました。サイエンス・サーカスでは、CPASの博士課程の学生がサイエンス・サーカスを単位履修の一環として行っており、各自の科学の専門分野とCPASで研究した科学コミュニケーションの考え方を効果的に取り入れながら、子どもたちに展示解説やサイエンスショーを行っています。日本でよくみられるサイエンスショーとの大きな違いは、子ども向け特有の話し方はしないこと、観客の反応を効果的にパフォーマンスに取り入れて観客全員で共有しながらショーを展開していたこと、take-home message が明確であったことでした。主な観客は 4, 5 歳程度の子どもの見受けられましたが、大人と子どもの関係は個人対個人の関係に効果的に置き換えられ、緩急交えて科学に満ちた空間を作っていました。

日本でも科学コミュニケーションに関する研究や実践は年々増加傾向にある中で多様な活動形態や考え方が存在します。まずは「自分は何のため（誰のため）に科学コミュニケーションを行っているのか」といった理念の紹介、あるいは共有をすることと、様々なセクターが連携して新しい価値観を作り出すこと、そしてそれを持続させるための戦略的方策が必要であることを痛感して帰国の途に就きました。全国科学館連携協議会の公式 HP は <http://jasma.sc/> です。（静岡科学館・高橋みどり）

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 207 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」（Web メール）をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：荻原 彰（三重大）	久保田善彦（上越教育大）
委 員：隅田 学（愛媛大）	土田 理（鹿児島大） 藤岡達也（上越教育大）
二見尚之（湘南工科大）	美馬のゆり（はこだて未来大）
谷塚光典（信州大）	渡辺政隆（科学技術振興機構）
幹 事：茅野公穂（信州大）	福井智紀（麻布大）

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連）

中西印刷(株) 学会部 内

□編集事務局（論文投稿・査読編集）

中西印刷(株) 学会部 内

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会